

第18回歴史文化をめぐる地域連携協議会 2020.2.2

# 阪神・淡路大震災の記憶を 歴史としてつなぐために

神戸大学大学院人文学研究科  
吉川 圭太

# 1. 震災資料の活用等をめぐるこれまでの主な取り組み(2014年～)

2014年度震災展示

「記憶から歴史へ —阪神・淡路大震災を知らない世代の取り組み—」

(2014.12.24～2015.1.29@神戸大学附属図書館社会科学系図書館)

2017年度震災展示

「阪神・淡路大震災をみつめる —大木本美通追悼写真展—」

(2018.1.11～2.1@神戸大学附属図書館社会科学系図書館)

『阪神・淡路大震災を撮る—大木本美通追悼写真集—』作成発行(2019.3)

2019年度震災展示

「草の根市民メディアからの発信 —「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災—」

(2020.1.16～2.4@神戸大学附属図書館社会科学系図書館)

## 2. 写真集『阪神・淡路大震災を撮る』の作成を通して

阪神・淡路大震災を撮る

大木本美通追悼写真集



## ◇大木本美通さんと震災記録写真

- ・1937年生まれ。現・豊岡市に育つ
- ・1952年、中学3年から神戸で過ごす
- ・1961年～、朝日放送(ABC)神戸支局の放送カメラマン  
(趣味のフィルムカメラで戦後神戸を撮影)
- ・1995年1月17日兵庫県南部地震  
→直後から仕事のかたわら被災地を丹念に歩き記録写真を撮り続ける
- ・2002年 神戸大学震災文庫に1995年～2002年の記録写真21,603枚を寄贈  
→震災文庫デジタルギャラリーで公開
- ・2005年(震災10年目) →神戸臨海部を中心に約1000枚撮影
- ・2015年(震災20年目) →再開発・区画整理地区を中心に約1000枚撮影
- ・2017年7月逝去

## ◇戦後の神戸の記録写真



「ジャンジャン市場」跡に「さんちかタウン」地上部の建設。正面は交通センタービル  
1965年夏(旧生田区三宮町1丁目)

## ◇戦後の神戸の記録写真



旧居留地の朝日ビル(旧神戸証券取引所) 1987年(中央区浪花町59)

## ◇戦後の神戸の記録写真

貯木場として利用されていた兵庫運河  
1964年10月(兵庫区材木町)



## ◇1995年1月17日朝の記録写真

「暗くて、寒くて、音のない、不気味な夜明けであった。

朝6時40分、妙法寺を出て歩いて三宮へ。

家を出るとき、戸棚に入っていたローライ35をポケットに入れて出かけた。

幸いフィルム24EXが入っていた。

地下鉄は止っていて、徒歩でまず板宿へ。既に民家に火がまわっていた。気があせる。

大田町に出て、西代—長田神社前—大開通—元町—支局へ。

約12～3km、2時間を越えた。

フィルムは大開駅あたりで終わった。」



須磨区妙法寺口ノ川



板宿駅前から須磨区戎町方面



## ◇1995年1月17日朝の記録写真

「暗くて、寒くて、音のない、不気味な夜明けであった。

朝6時40分、妙法寺を出て歩いて三宮へ。

家を出るとき、戸棚に入っていたローライ35をポケットに入れて出かけた。  
幸いフィルム24EXが入っていた。

地下鉄は止っていて、徒歩でまず板宿へ。  
既に民家に火がまわっていた。気があせる。

大田町に出て、西代—長田神社前—大開通—元町—支局へ。  
約12～3km、2時間を越えた。

フィルムは大開駅あたりで終わった。」



長田区西代通2丁目



長田神社参道入口  
(長田区大道通1丁目)

## ◇1995年1月17日朝の記録写真

「暗くて、寒くて、音のない、不気味な夜明けであった。

朝6時40分、妙法寺を出て歩いて三宮へ。

家を出るとき、戸棚に入っていたローライ35をポケットに入れて出かけた。  
幸いフィルム24EXが入っていた。

地下鉄は止っていて、徒歩でまず板宿へ。  
既に民家に火がまわっていた。気があせる。

大田町に出て、西代—長田神社前—大開通—元町—支局へ。  
約12～3km、2時間を越えた。

フィルムは大開駅あたりで終わった。」



大開駅地上部(兵庫区水木通7丁目)



大開駅付近から長田区御蔵通・菅原通方面の黒煙

## ◇震災記録写真(定点観測)



旧居留地 十五番館(1975年頃)



倒壊した十五番館(1995年1月下旬)



再建工事が進む十五番館(1997年2月5日)



再建された十五番館(1998年4月16日)

## ◇震災記録写真(震災当時と20年後)



東灘区のセルバサティから森南地区を俯瞰  
(1995年4月28日)

東灘区のセルバサティから森南地区を俯瞰  
(2014年10月30日)  
1996年10月新設のJR甲南山手駅のホーム  
が右に見える。



◇震災記録写真(震災当時と20年後)



兵庫区松本通5丁目の火災跡(1995年3月26日)

◇震災記録写真(震災当時と20年後)



兵庫区松本通5丁目、区画整理に伴う道路拡張(2001年6月27日)

## ◇震災記録写真(震災当時と20年後)

土地区画整理事業により道路が拡幅され、  
「せせらぎ」が流れる松本通  
(2014年9月27日)

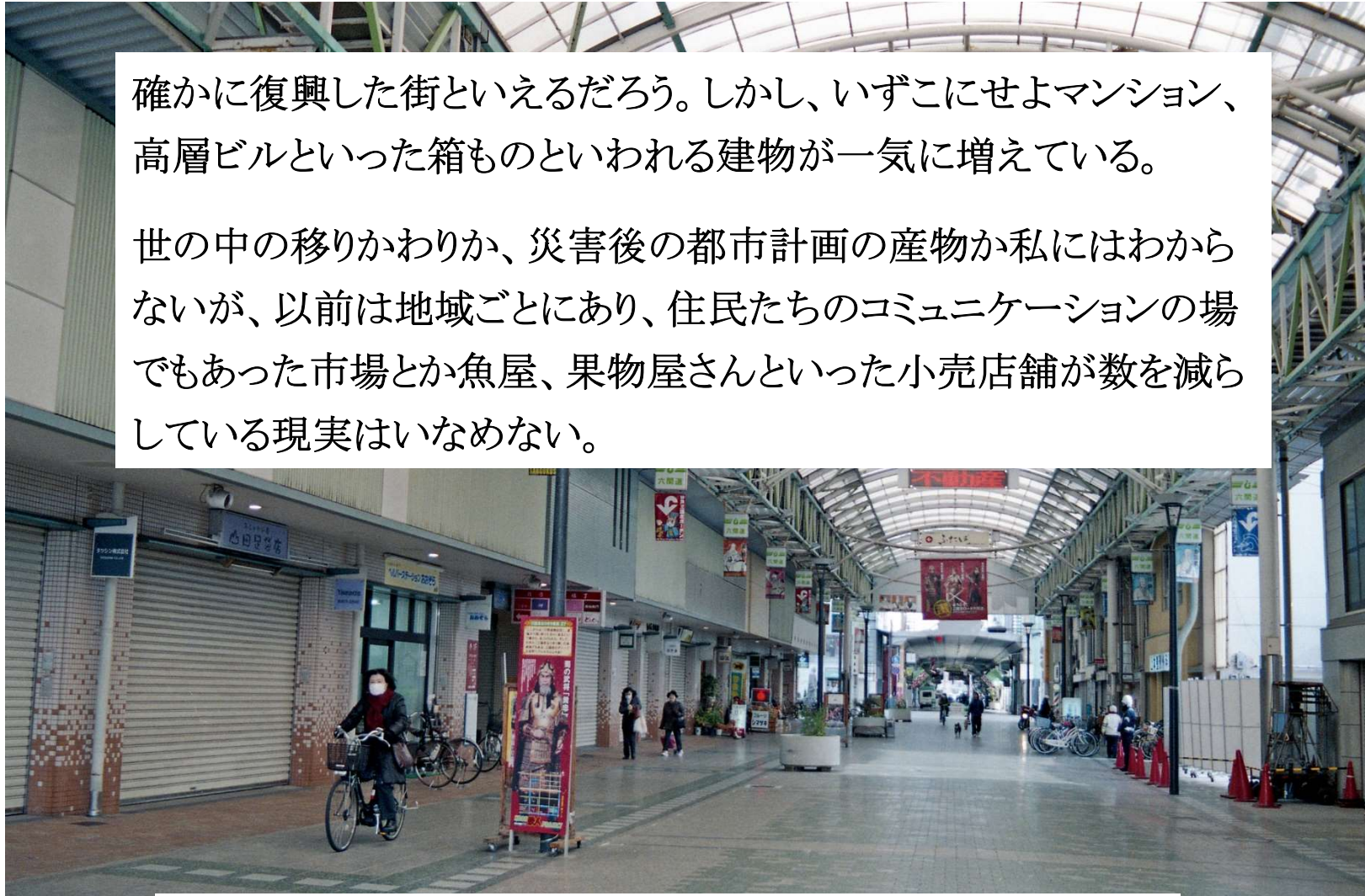
いかに小さな情報、目にしたこと、耳にした事  
等も、震災に関わることであればメモしておきたい  
と考えている。例えば復興都市計画に関係  
した地域を歩いてみて、新しい住宅地には広  
い歩道が整備されているし、緊急時に使われる  
と思う小公園のスペースが方々に見られる。  
「せせらぎ」や消火栓、用水設備の完備、公園  
の一角に建てられた非常用器具を入れた小屋  
が目につく。



## ◇震災記録写真(震災当時と20年後)

確かに復興した街といえるだろう。しかし、いずこにせよマンション、高層ビルといった箱ものといわれる建物が一気に増えている。

世の中の移りかわりか、災害後の都市計画の産物か私にはわからないが、以前は地域ごとにより、住民たちのコミュニケーションの場でもあった市場とか魚屋、果物屋さんといった小売店舗が数を減らしている現実はいなめない。



六間道商店街(2014年2月5日)



## ◇フィルムカメラへのこだわり

「いまだにフィルムをよう離さんのですよね。僕はどこまで写真というものを信じていいのか、デジタルでは疑問があつて。

だから今僕が撮っている写真はアンダーだったら暗くて、どうしようもない。ピントがぼけてたら直すこともできない。

そのかわり、その時のある時間を切り取ったんだよという自負はあるわけなんですね。これは本物なんだという気持ちがあつて。」

(2014年11月5日、神戸大学文学部日本史演習の招待講義にて)

## ◇大木本さんの震災記録写真の特徴

### ・撮影対象地域

- －神戸市街地を中心に淡路から宝塚までの「震災の帯」
- －神戸市西区・北区などの大規模仮設団地など

### ・撮影地域の偏差：一人の人間を通した「震災」記録写真

- －1995年1月17日～3月
  - ⇒通勤路の須磨・長田など神戸西部、職場のある元町・三宮を中心
- －1995年3月～
  - ⇒交通網の復旧に伴い、神戸東部や遠方も撮影
- －趣味の近代建築や石仏・石塔なども多く撮影

### ・長期にわたる定点観測／俯瞰撮影の多用

### ・時間の経過による関心の変化

放送カメラマンかつ一人の生活者の目を通した被災地の「変遷史」

## 【目次】

### 第1章 震災前の神戸

### 第2章 阪神・淡路大震災7年間の記録

- I 震災直後の街の変容と生活
- II 三宮・元町・神戸
- III 長田・須磨・兵庫
- IV 灘・東灘

### 第3章 震災から10年、20年へ 震災20年を迎えての手記

阪神・淡路大震災を撮る

大木本美通追悼写真集





そごう前のフラワーロードから三宮交差点の南側周辺を写す  
左には5階が座屈倒壊した交通センタービル、右は三宮ターミナルビル  
1995年2月4日(中央区三宮町1丁目・雲井通8丁目)



三宮駅南歩道橋から西を写す 1996年10月9日(中央区三宮町1丁目)  
右に交通センタービル。3階以上が撤去され、上層階の再建が進む。  
道路を挟み左端、かつてのジャンジャン市場の地には「阪神・淡路大震災復興支援館(フェニックスプラザ)」がこの年7月開館。2002年閉館し、跡地には翌年「神戸マルイ」が開業。



10階建てで完工した交通センタービル  
1997年8月15日(中央区三宮町1丁目)



そごう神戸店新館と右に全壊した国際会館  
1995年2月4日(中央区御幸通8丁目)



国際会館が解体され更地になる。  
《この頃、三宮の空が広がって見える感じがした。》  
1995年10月26日



新国際会館の建設、骨組が上がりはじめた 1997年8月15日



完成しオープン間近の新しい国際会館 1999年4月22日

## ◇写真集の編集を通して

### 震災を直接体験していない人間による編集

#### ① 構成をどうすべきか

- －震災以前、震災10年・20年の街の移り変わりをどう構成するか
- －大木本さんという一人の人間の軌跡をどう反映させるか

#### ② 写真選定のむずかしさ

- －写真点数の多さ／大木本さんの関心はどこか／何を取り上げるべきか
- －震災を体験していない者による「取捨選択」「再構成」(への不安)

※ 大木本さんの撮った「震災」を、私が再構成した「震災」

## ◇写真集の編集を通して

### 震災を直接体験していない人間による編集

#### ③ 撮影地点の特定のむずかしさ

— 街の変貌／そもそも自分に土地勘がない → 調べる・聞く・歩くしかない

#### ④ 写真キャプション作成のむずかしさ

— 震災「前」の神戸に関する情報・研究があまりない

\* 戦災復興・闇市研究に比し、高度成長期以降の具体的な研究の少なさ

— ここ数年に姿を消したり、竣工した建物や施設などの情報

**※ 震災を地域の歴史のなかでとらえる視点、研究の必要**

### 3. 学生による震災資料展の制作を通して



## ◇草の根市民メディアからの発信 —「ミニコミ」から問う阪神・淡路大震災—

(2020年1月16日～2月4日、於神戸大学附属図書館社会科学系図書館2階)

- ・授業(文学部日本史演習・現代史)の一環
- ・阪神・淡路大震災非体験世代の受講生6名と、非体験者の教員





## ◇「震災ミニコミ」への着目（個人的な経験と問題関心）

### ① 愛媛資料ネット等との共同による「伊方原発反対運動資料」の保存・整理作業（2017年～）

— 個人・団体発行「ミニコミ」が多数残存

— 戦後市民運動における「ミニコミ」の役割への関心

### ② 阪神・淡路大震災での「ミニコミ」の簇生 ⇔ 現在のインターネット・SNSの普及

→ 「震災ミニコミ」という媒体を通し、

戦後の市民活動の流れのなかで、

阪神・淡路大震災や「ボランティア元年」をとらえ直す



# 阪神・淡路大震災のミニコミ(手書き、ワープロ)

14-00379-005028  
 神戸市東灘区  
 TEL 078-643-2472  
 FAX 078-643-2472  
 2000年11月号  
 神戸市東灘区本橋町  
 〒253-0112  
 公的補助とはなぞ  
**このとり**  
 カパ大専  
 郵政番号  
 〒253-0112  
 電話00930-0-60522  
 公的補助とはなぞ

## 「住居は公共的品格」

### 最速給付の食料給付が

震災発生後、被災者は、食料、衣類、生活必需品を必要とする。被災者の生活安定のために、被災者の生活必需品の供給が重要である。食料給付は、被災者の生活安定のために、最も重要な施策の一つである。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。

食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。

14-00379-005028  
 神戸市東灘区  
 TEL 078-643-2472  
 FAX 078-643-2472  
 2000年11月号  
 神戸市東灘区本橋町  
 〒253-0112  
 公的補助とはなぞ  
**このとり**  
 カパ大専  
 郵政番号  
 〒253-0112  
 電話00930-0-60522  
 公的補助とはなぞ

## 「住居は公共的品格」

### 最速給付の食料給付が

震災発生後、被災者は、食料、衣類、生活必需品を必要とする。被災者の生活安定のために、被災者の生活必需品の供給が重要である。食料給付は、被災者の生活安定のために、最も重要な施策の一つである。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。

食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。食料給付は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。

Daily Needs  
**デイニーズ**  
 生活情報から片  
 第1号 1995.1.26.  
 発行 エスエムエム(030-502-0904)  
 印刷 ちがび印刷移動印刷所

## 神戸南の被災に 木がない!!!

神戸南の被災に木がない!!!  
 被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。

被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。

## 「避難してきた避難者」を救うために

「避難してきた避難者」を救うために  
 被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。被災地は、被災者の生活必需品を供給するだけでなく、被災者の生活安定を促進する効果もある。

## 明日(26日)から始まる「神戸市被災者一時 住居の仮設入居申込」には 「被災証明」は必要ありません

「被災証明」は自分で申し出たお家の被災状況を証明するものではありません。「被災証明」は非常災害の時に、何らかの被災状況が被災者に発生したことを証明するものではありません。

## ◇授業のながれ

・文献講読

↓ ↑

・学生自らによる課題設定

↓ ↑

・震災資料の調査・分析

(神戸大学震災文庫、人と防災未来センター、震災・まちのアーカイブなど)

↓ ↑

・展示原稿の作成・推敲

※オーソドックスな歴史研究の手法による震災研究

## ◇学生たちによるテーマ設定

- ・震災時の情報・メディアのあり方
- ・学校避難所の運営
- ・公園避難所(テント村)
- ・仮設住宅・復興住宅への移行、高齢者問題
- ・路上生活者支援
- ・学生ボランティア(神戸大学学生震災救援隊)

+

- \* 借上げ復興住宅問題
- \* 県外避難者とその支援
- \* 公的支援要求運動



震災・まちのアーカイブでの調査











1月31日「第9回被災地図書館との震災資料  
の収集・公開に係る情報交換会」

(阪神淡路、東日本、熊本等の関係者が参加)

学生らによる展示解説



◇震災を地域の「歴史」のなかで具体的に把握する  
＝「継承」の前提

「資料」を調べ、読みこむ



話を聴く、街を歩くなど

○「知識」を得る



○ 現実的問題として「認識」する

## 4. おわりに

### ① 阪神・淡路大震災25年

- － 当時の団体の解散や個人の逝去などによる連絡不通
  - － 資料の二次利用許諾(著作権など)の問題
  - － 聞き取り調査を急ぐ必要

### ② 阪神・淡路大震災を検証し得る多様で膨大な資料

→どう調査研究・活用していくか

### ③ 恒常的な調査研究の必要(展示はその蓄積の上に)

- － 学内および他機関・団体との連携協力
- － 歴史研究・資料研究としての震災研究(今後ますます重要になるのでは)
- － 大学教育での位置づけ／小さな研究会などから

### ④ 昨今のデジタルアーカイブをどう考え、活用するか

- － デジタルアーカイブは「入り口」
- － やはり〈資料〉と〈人〉をつなぐ「人間」がいてこそ資料は活かされる